

434) 猫 1

会社から帰ると、真っ先に我輩を迎えてくれるのは女房殿でも、はたまた子供達でもない、野良猫あがりの猫殿であります。悲しいことだが、我が家ではこいつが一番律儀で、誠実なヤツと言うわけでありまして、だから猫殿は庭中を我輩の後に付いてくるのであります。この日は夜おそく庭に出て、夜盗虫を探していたのであります。この日は夜おそく庭に出て、夜盗虫を探していたのであります。この日は夜おそく庭に出て、夜盗虫を探していたのであります。せっかく大きくなり始めた百合のつぼみを夜盗虫が食い荒らして、丸ボウズにされかねない状態だったからであります。懐中電灯で百合の根もとから頂上あたりを一生懸命さがしていると足下でガサガサと音がして、サンダルの上に重いもんがどさりところがり落ちたのであります。だからこの時も猫どんだとばかり思って、ちょいと頭なんぞを撫でてあげたのであります。どうも感触がおかしい。そこで懐中電灯で照らしてよくよく見ると、その姿はでっかい蝦蟇だったのであります。キャハッハ、こんなものを撫ぜちまったよ。どうしよう。キンモチ悪一。田舎暮らしって意外に楽じゃないすねー。